YAMAHA

取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

TÉNÉRÉ 700

モーターサイクル

Ténéré700 (XTZ690)

BVW-28199-J0

安全運転のために 1
各部の名称 2
各部の取り扱いと操作 3
日常点検 4
運転操作 5
点検整備 6
お車の手入れ 7
製品仕様 8
ユーザー情報 9
索引 10

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。
- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3
- メインディスプレイ画面 2-4

各部の取り扱いと操作 3-1
- キーの取り扱い 3-1
- イモビライザーシステム 3-1
- メインスイッチ 3-2
- ハンドルスイッチ 3-3
- 警告灯と表示灯 3-5
- メインディスプレイ画面 3-7
- メニューシステム 3-10
- クイックシフター（装備している場合） 3-13
- ABS 3-13
- フューエルタンクキャップ 3-14
- 燃料 3-15
- シート 3-16
- ヘルメットホルダー 3-17
- 書類入れ 3-17
- フロントフォークの調整 3-18
- フロントフォークのエア抜き 3-19
- リヤクッションの調整 3-20
- 荷掛けフック 3-21
- フロントフェンダー 3-22
- ブレーキレバーの握り調整 3-22
- DC コネクター 3-22
- USB ジャック 3-23
- サイドスタンド 3-23
- イグニッションサーキットカットオフシステム 3-24

日常点検 4-1
- 日常点検の実施 4-1
- 日常点検箇所／点検内容 4-1

運転操作 5-1
- ならし運転 5-1
- エンジン始動 5-1
- ギヤチェンジのしかた 5-2
- ブレーキ 5-3
- 駐車 5-3

点検整備 6-1
- 点検整備の実施 6-1
- サービスツール 6-2
- カバーの取り外し、取り付け 6-2
- エンジンオイル 6-3
- エンジンのかかり具合、異音の点検 6-4
- 低速、加速の状態の点検 6-4
- 冷却水 6-5
- エアクリーナーエレメントの交換 6-6
- タイヤ 6-7
- クラッチ 6-9
- ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 6-10
- ブレーキランプスイッチの点検 6-10
- ブレーキパッドの点検 6-10
- ブレーキ液量の点検 6-11
- ドライブチェーン 6-12
- ドライブチェーンの給油 6-13
- バックミラー 6-13
- 車体各部の給油脂状態の点検 6-13
- バッテリー 6-14
- ヒューズ交換 6-15
- 灯火装置および方向指示灯の点検 6-17
- 運行において異常が認められた箇所の点検 6-17

お車の手入れ 7-1
- 洗車 7-1
- 保管のしかた 7-2
- アフターケア用品について 7-3

製品仕様 8-1

ユーザー情報 9-1
- 二輪車を廃棄する場合は？ 9-1
- サービスマニュアル（別売）の紹介 9-2
- 車両情報 9-2

索引 10-1

JAU27281

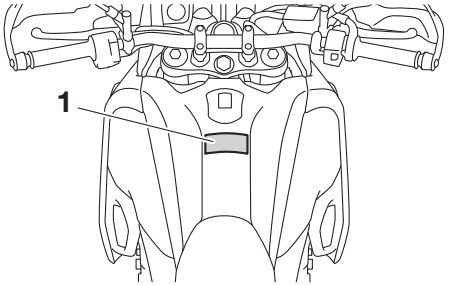
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737B

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - プロテクターを備えた保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

安全運転のために



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

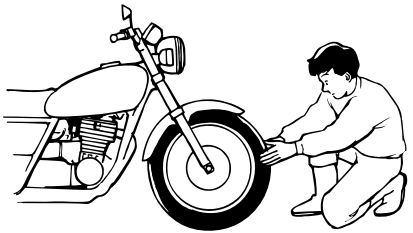
JWA11601

⚠警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



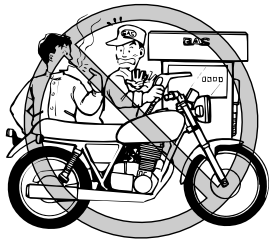
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

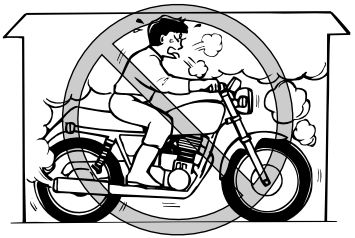
給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

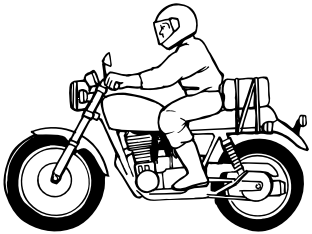


風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



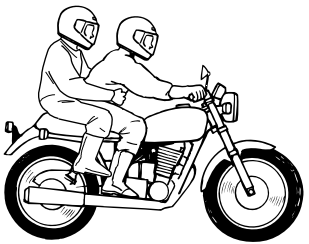
荷物はしっかり固定する



- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

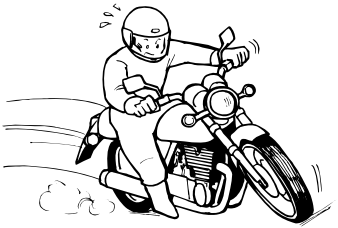


乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

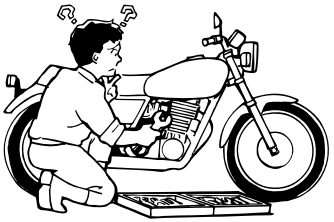
また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない
誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。
- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

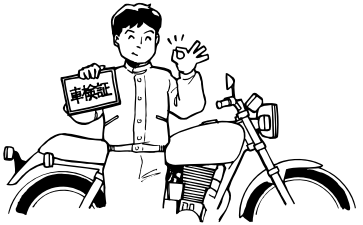


JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける
二輪の小型自動車（251cm³ 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。
検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。



JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



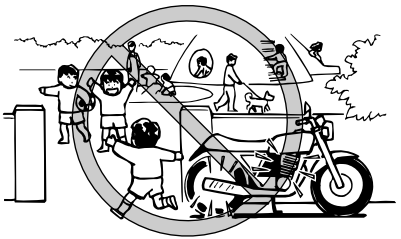
駐車

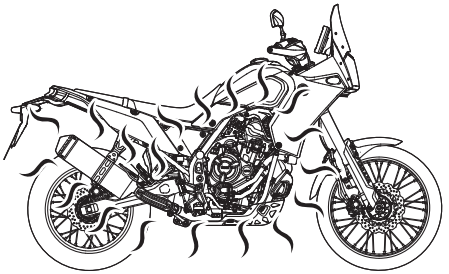
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

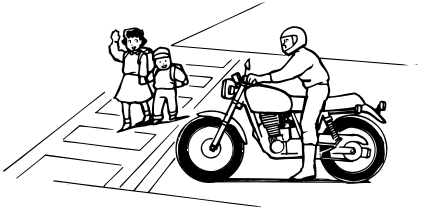
1

JAU27582

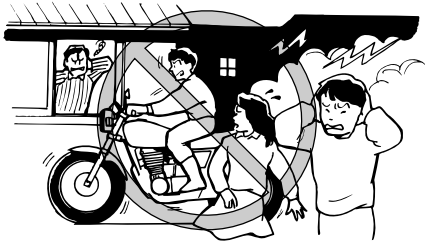
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

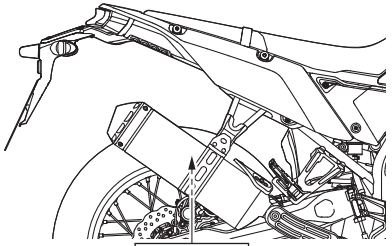


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

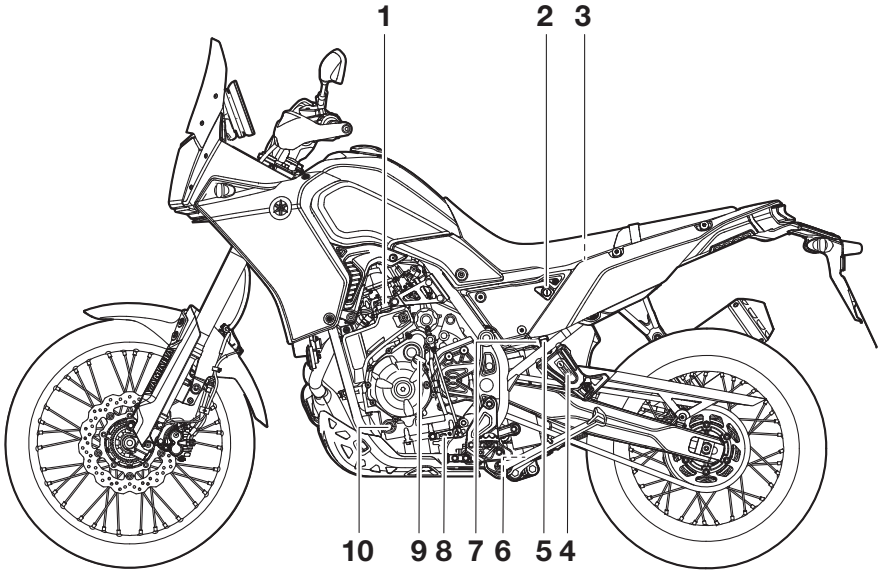


環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU10411

左側面



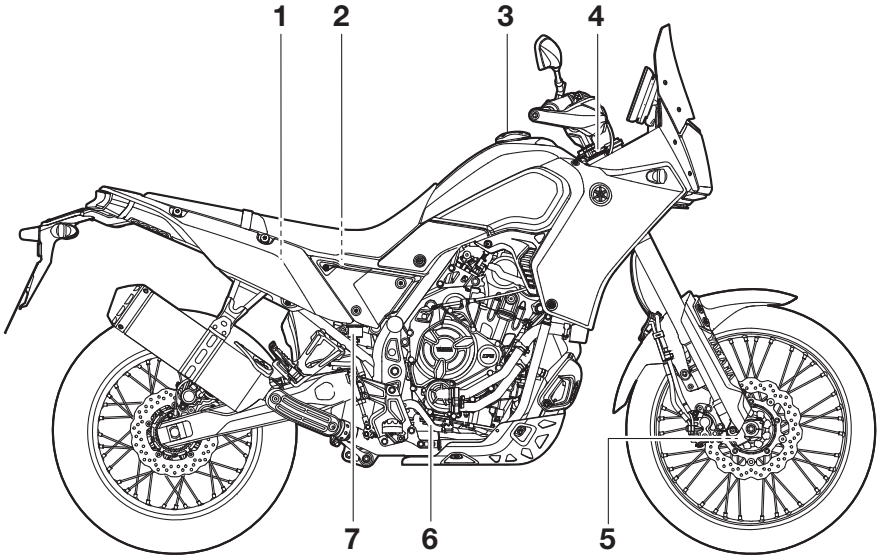
1. リカバリータンク（P6-5）
2. シートロック（P3-16）
3. サービスツール（P6-2）
4. ヘルメットホルダー（P3-17）
5. スプリングプリロードアジャスター (P3-20)
6. 伸側減衰力アジャスター (P3-20)
7. 圧側減衰力アジャスター（P3-20）
8. シフトペダル（P5-2）
9. オイル注入口（P6-3）
10. エンジンオイル点検窓（P6-3）

各部の名称

JAU10421

右側面

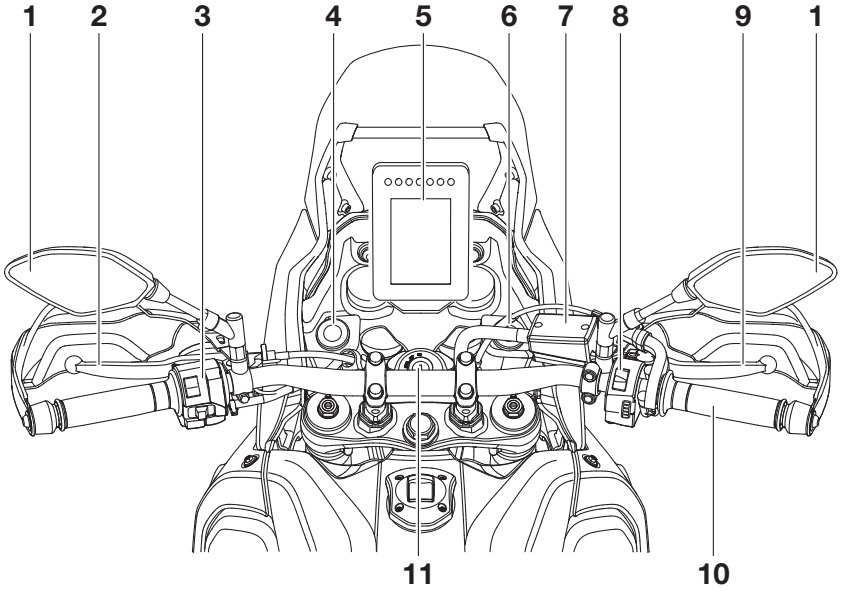
2



1. ヒューズ（P6-15）
2. バッテリー（P6-14）
3. フューエルタンクキャップ（P3-14）
4. 伸側減衰力アジャスター (P3-18)
5. 圧側減衰力アジャスター（P3-18）
6. ブレーキペダル（P6-10）
7. リヤブレーキリザーバータンク（P6-11）

JAU10431

運転装置と計器類

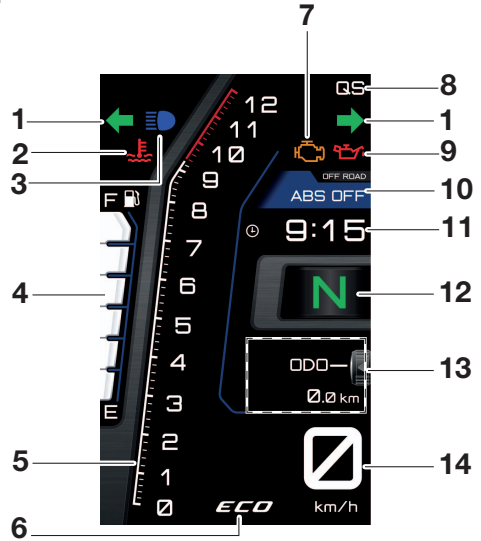


1. バックミラー (P6-13)
2. クラッチレバー（P6-9）
3. ハンドルスイッチ（左）（P3-3）
4. “ABS ON” ボタン（P3-5）
5. マルチファンクションメーター（P3-7）
6. USB ジャック (P3-23)
7. フロントブレーキリザーバータンク（P6-11）
8. ハンドルスイッチ（右）（P3-3）
9. ブレーキレバー（P6-10）
10. スロットルグリップ
11. メインスイッチ / ハンドルロック（P3-2）

JAUM4620

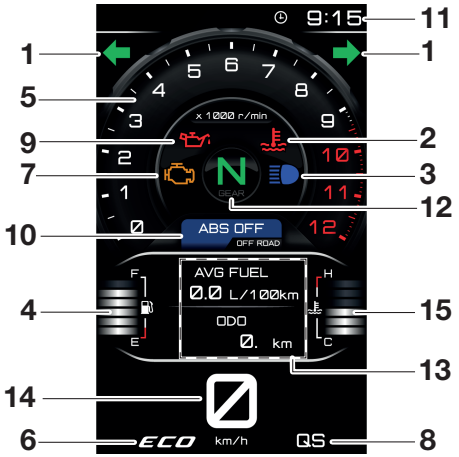
メインディスプレイ画面

Explorer



1. 方向指示器表示 “ ”/“ ” （P3-8）
2. 水温警告表示 “ ” （P3-7）
3. ヘッドライト上向き表示 “ ” （P3-8）
4. 燃料計（P3-7）
5. タコメーター（P3-7）
6. エコ表示（P3-8）
7. エンジン警告表示 “ ” （P3-8）
8. クイックシフター表示 “QS”（装備している場合）
9. 油圧警告表示 “ ” （P3-7）
10. ABS モード表示（P3-8）

Street

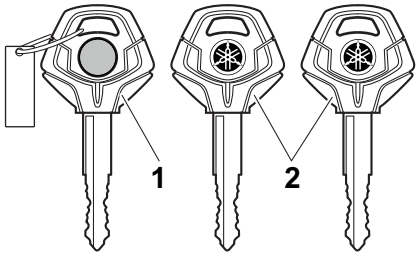


11. 時計（P3-7）
12. ギヤポジション表示（P3-7）
13. インフォメーションディスプレイ（P3-9）
14. スピードメーター（P3-7）
15. 水温計（P3-7）

JAU97000

キーの取り扱い

メインキー（赤マーク）が 1 本とサブキー（ヤマハマーク）が 2 本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤マーク）
2. サブキー（ヤマハマーク）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- **メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーの ID を登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。**
- **キーを水に浸けないでください。**
- **キーを高温になる場所に置かないでください。**
- **キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **キーに電波を発信するものを近づけないでください。**
- **キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。**
- **キーを分解しないでください。**
- **複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。**
- **金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。**

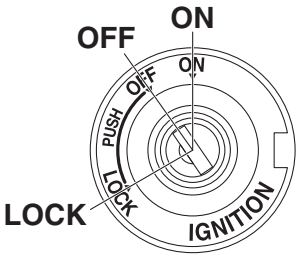
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 3-6 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU90040

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まっても車両の電源をオフにするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

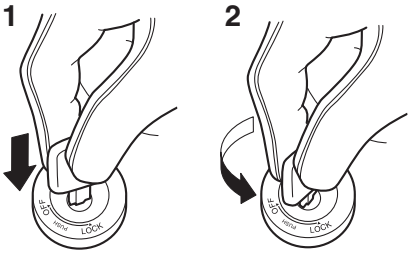
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU73803

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



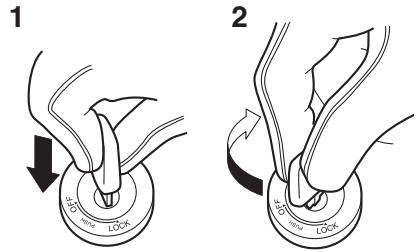
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



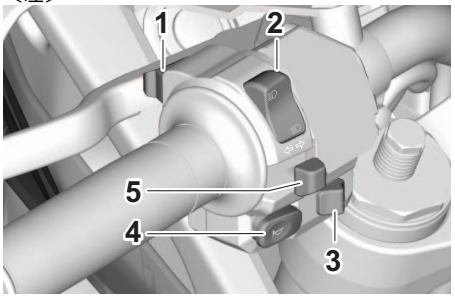
1. 押す
2. 回す

キーを押し込み、そのままOFFまで回します。

JAU66059

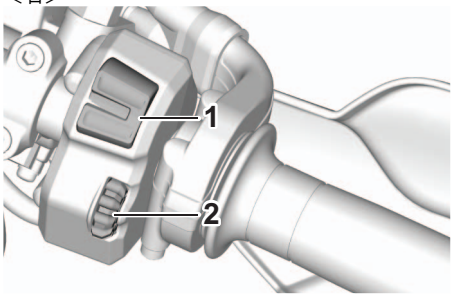
ハンドルスイッチ

＜左＞

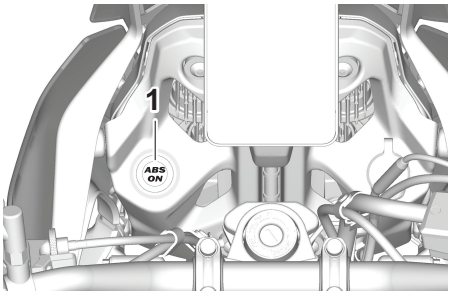


1. パッシングライトスイッチ“≡O”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ“≡O/≡O”
3. ハザードスイッチ“OFF/⚠”
4. ホーンスイッチ“ ”
5. 方向指示器スイッチ“⇦/⇨”

＜右＞



1. スターター／エンジンストップスイッチ“⊗/◯/⊛”
2. ホイールスイッチ“MENU▲▼”



1. “ABS ON”ボタン

JAU76731

パッシングライトスイッチ“≡O”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

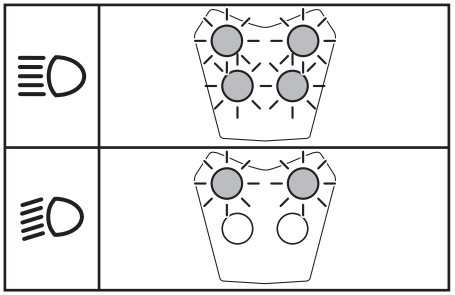
要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが“≡O”のときは、使用できません。

JAU98390

ヘッドライト上下切り替えスイッチ“≡O/≡O”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。
≡O（上向き）：遠くを照らします。
≡O（下向き）：近くを照らします。



要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU85490

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
⇨: 右側の方向指示灯が点滅します。
⇦: 左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JAU66030

ホーンスイッチ “🔊”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU66061

スターター／エンジンストップスイッチ “㋮/◯/⊠”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “◯” に合わせてから、スイッチの “㋮” 側を押してください。

JCA11882

注 意

- **スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。**

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには “⊠” にします。通常は “◯” にしておきます。

JWA17700

⚠警 告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20772

注 意

- **非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ず車両の電源をオフにしてください。オンのままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを “◯” → “⊠” → “◯” にしないでください。エンジン不調の原因となります。**

要　点

“⊠” にすると、エンジンは始動できません。

JAU88273

ハザードスイッチ “OFF/⚠”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。
ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、または LOCK にしてもハザードランプは点滅し続けます。
ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU98024

ホイールスイッチ “MENU”

このスイッチは、インフォメーションディスプレイおよびメニューシステムを操作することができます。

ホイールスイッチは、次のとおり操作します。

回す - ホイールを上下に回転させます。

短押し - ホイールを短く押し込みます。

長押し - ホイールを 1 秒以上押し込みます。

要 点

- メインディスプレイ画面とその機能についての詳細は、3-7 ページを参照してください。
- メニューシステムと設定の変更についての詳細は、3-10 ページを参照してください。

JAUA1030

“ABS ON” ボタン

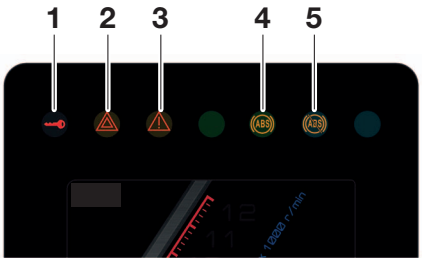
アンチロックブレーキシステム (ABS) がオフになっている場合に、このボタンを押すとオンになります。

要 点

- “ABS ON” ボタンは走行中に使用できません。必ず車両を停止してから操作してください。
- ABS をオンにすると、ABS モード表示と ABS OFF 表示灯 “ABS” が消灯します。

JAU4939Y

警告灯と表示灯



1. イモビライザーシステム表示灯 “”
2. ハザード表示灯 “”
3. 故障表示灯 “”/“”
4. ABS 警告灯 “ABS”
5. ABS OFF 表示灯 “ABS”

JAUM4591

ハザード表示灯 “”

ハザードスイッチを “” にすると点滅します。

JAUM4581

故障表示灯 “”/“”

エンジン警告表示 “” が表示されていると、オレンジ色に点灯します。

水温警告表示 “” または油圧警告表示 “” が表示されていると、赤色に点灯します。

車両の電源をオンにしても表示灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU91850

ABS 警告灯 “ ”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

JWA16043

警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき

- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

JAUA0911

ABS OFF 表示灯 “ ”

この表示灯は、ABS を手動でオフにしたときに点灯し、同時に ABS モード表示が点灯します。(3-8 ページ参照)

要 点

次の操作をするまで、ABS はオフのままになります。

- 車両の電源をオフにする
- エンジン始動中にスターター／エンジンストップスイッチ “⊠/⌒/㋮” を “⊠” にする
- 車両を停止し、“ABS ON” ボタンを押す
- 車両を停止し、メニューシステムから再設定する

JWA21100

警 告

舗装路を走行するときは常に ABS をオンにして走行してください。未舗装路を走行するときのみ ABS をオフにしてください。

JAU92710

イモビライザーシステム表示灯 “ ”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーのIDの認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAUA1310

メインディスプレイ画面

メインディスプレイ画面には “Explorer” と “Street” の2つのテーマがあります。(2-4 ページ参照) テーマによっては、一部の機能は利用できない場合があります。(3-11 ページ参照)

JWA18210

⚠ 警 告

設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

要 点

- このモデルは TFT 液晶により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見やすさを実現しています。場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。
- 表示単位は、キロメートルとマイル、°C (摂氏) と °F (華氏) を切り替えることができます。(3-12 ページ参照)
- 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

スピードメーター

車両の速度を表示します。

タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン : 9400 r/min 以上

燃料計

フューエルタンク内の燃料残量を示します。燃料が減るにつれて、表示セグメントが “F” (満) から “E” (空) に向けて減っていきます。最後のセグメントが点滅を始めたときは、速やかに給油してください。

要 点

燃料計のすべてのセグメントが点滅を始めた場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCAE0121

注 意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

水温計

冷却水の温度を表示します。
冷却水が規定温度以上になったとき、一番上のセグメントが点滅します。

要 点

- 水温計は “Street” テーマでのみ表示されます。
- 水温計のすべてのセグメントが点滅を始めた場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

時計 “🕒”

この時計は 12 時間表示です。

ギヤポジション表示

選択しているギヤポジションを表示します。この車は 6 段のギヤとニュートラル位置があります。ニュートラルのときは “N” が表示されます。

要 点

異常が発生した場合、“-” が表示されます。

水温警告表示 “🌡”

冷却水が規定温度以上になると表示されます。この場合は、エンジンを止めて冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告表示 “🛢”

エンジンの油圧が低くなると表示されます。車両の電源をオンにした直後はエンジンの油圧がまだ上がっていないため、エンジンが始動するまで表示されます。

要　点

異常が発生したとき、油圧警告表示が点滅します。

JCA26410

注 意

油圧が低下している場合、エンジンの使用を続けないでください。

エンジン警告表示 “”

エンジン異常が発生したとき、警告表示が点灯します。警告表示が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告表示が数秒間点灯し、その後消灯します。警告表示が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA28510

注 意

エンジン警告表示が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要　点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告表示が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告表示の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リヤブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

ヘッドライト上向き表示 “”

ヘッドライトを上向きにすると表示されます。

方向指示器表示 “”/“”

方向指示器に合わせて点滅します。

ABS モード表示

現在選択されている ABS モードを表示します。ABS モードは 3 つあり、メニューシステムで設定できます。(3-11 ページ参照)

ABS の状態	ディスプレイ表示
ABS オン	表示なし
後輪 ABS オフ	“REAR ABS OFF” と “OFF ROAD”
ABS オフ	“ABS OFF” と “OFF ROAD”

エコ表示

環境にやさしく、燃費の良い状態で車両を運転している場合に点灯します。アイドリング時は表示が消灯します。

要　点

燃費を抑えるには、次のことを心がけて運転してください

- 加速中にエンジン回転数を高くしない
- 一定の速度で走行する
- 速度に適したギヤを選択する

クイックシフター表示（装備している場合）

クイックシフターが有効になると表示されます。表示されていないときは操作できません。クイックシフターの詳細は、3-13 ページを参照してください。

インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイはメインディスプレイ画面にあり、車両の操作に必要な機能と情報が表示されます。
表示項目は、次のとおりです。
ODO：オドメーター
COOLANT：水温計
AIR：気温計
TRIP 1：トリップメーター 1
TRIP 2：トリップメーター 2
TRIP CD：カウントダウントリップメーター
TRIP F：フューエルトリップメーター
INST FUEL：瞬間燃費
AVG FUEL：平均燃費
ホイールスイッチ “MENU▲▼” を上下に回転させると項目が切り替わります。

要　点

- 4 つのトリップメーターと平均燃費 (AVG FUEL) は個別にリセットできます。カウントダウントリップメーター (TRIP CD) は調整もできます。
- “Street” テーマでは、一度に 2 つの項目が表示されます。
- ポップアップメニューが開いているときは、インフォメーションディスプレイがスピードメーターに置き換わります。

インフォメーションディスプレイの数値をリセットするには

表示されている項目がリセット可能な場合は、ホイールスイッチ “MENU▲▼” を短押しすると項目がハイライト表示されます。ハイライト表示されたら、数値がリセットされるまでホイールスイッチ “MENU▲▼” を長押しします。

オドメーター (ODO)

車両の総走行距離を表示します。

要　点

オドメーターは最大値 (999999 km) で固定され、リセットできません。

水温計 (COOLANT)

冷却水の温度を、39 °C から 117 °C まで 1 °C 刻みで表示します。

要　点

- 冷却水の温度が 39 °C 未満の場合、“Low Temp” と表示されます。
- 冷却水の温度が 117 °C 以上の場合、“High Temp” と表示されます。

気温計 (AIR)

気温を、–9 °C から 50 °C まで 1 °C 刻みで表示します。表示される温度は、外気温と一致していない場合があります。

要　点

計測された気温が表示範囲より高い、または低い場合は、“---” と表示されます。

トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)

“TRIP 1” と “TRIP 2” は、ゼロにリセットされてからの走行距離を表示します。

要　点

“TRIP 1” と “TRIP 2” は、9999.9 に到達するとゼロにリセットされ、カウントを続けます。

カウントダウントリップメータ (TRIP CD)

設定された距離から走行距離をカウントダウンします。カウントダウントリップメーターをリセットすると、最初の桁が点滅します。ホイールスイッチ “MENU▲▼” を回転させ、点滅している桁を設定します。ホイールスイッ

チ “MENU▲▼” を短押しして確定すると、次の桁が点滅します。3 桁目まで同じ手順でトリップメーターを設定します。
設定した距離を走行し終わると “0.0” と表示され、10 回点滅します。インフォメーションディスプレイに他の項目が表示されている場合は、カウントダウントリップメーターに切り替わり 10 回点滅してから元の項目に戻ります。

要　点

設定が可能な最大値は 900.0 km です。

フューエルトリップメーター (TRIP F)
燃料タンクの予備レベルに達すると、自動的に “TRIP F” が表示され、その時点からの走行距離の計測を始めます。
“TRIP F” は、給油後ある程度の距離を走行すると表示されなくなります。

瞬間燃費 (INST FUEL)
瞬間燃費は “km/L” または “L/100km” に設定できます。(3-12 ページ参照)

要　点

- 10　km/h 未満の速度で走行している場合は、“--.-” と表示されます。
- “MPG” はマイル単位の表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

平均燃費 (AVG FUEL)
平均燃費は “km/L” または “L/100km” に設定できます。(3-12 ページ参照)

要　点

- 平均燃費をリセット後は、1 km 走行するまで “--.-” と表示されます。
- “MPG” はマイル単位の表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

JAUA1320

メニューシステム

要　点

- 走行中または特定の警告灯や表示アイコンが点灯している場合は、メニューシステムにアクセスできません。メニューシステムにすでにアクセスしている場合は、メイン画面に戻ります。
- ホイールスイッチ “MENU▲▼” を 10 秒間操作しなかった場合、メニューシステムが終了し、メイン画面に戻ります。

メニューシステムの操作
メニューシステムは、右側のハンドルにあるホイールスイッチ “MENU▲▼” で操作します。

- メイン画面が表示されているときに、ホイールスイッチ “MENU▲▼” を長押しするとメニューシステムが開きます。
- ホイールスイッチ “MENU▲▼” を上下に回転すると、メニュー項目を順番に表示／選択したり、点滅している項目は数値の調整ができます。
- ホイールスイッチ “MENU▲▼” を短押しすると、選択した項目をハイライト表示／解除ができます。
- 項目がハイライト表示しているときにホイールスイッチ “MENU▲▼” を長押しすると、項目の設定／確定ができます。

要　点

メニュー項目がハイライト表示されていないときにホイールスイッチ“MENU”を長押しすると、ポップアップメニューが閉じます。

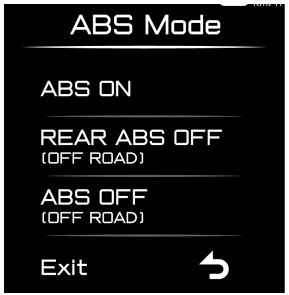


1. ポップアップメニュー

ポップアップメニューには、次のメニュー項目があります。

Setting	マルチファンクションメーター操作に関連する設定を行います。(3-11 ページ参照)
ABS Mode	ABS のオン／オフを切り替えます。(3-11 ページ参照)
Themes	ディスプレイのテーマを切り替えます。(3-11 ページ参照)

ABS Mode



このメニューでは、ABS のオン／オフ、または後輪のみをオフにすることができます。メイン画面の ABS モード表示に、現在選択されている ABS モードが表示されます。(3-8 ページ参照)
メニュー項目を選択し、ホイールスイッチ“MENU”を短押しして ハイライト表示します。ホイールスイッチ“MENU”を長押しすると、ABS モードが確定します。

要　点

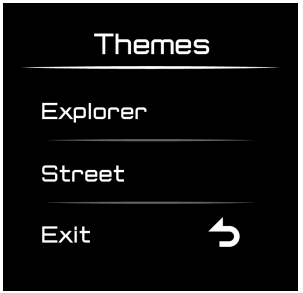
- ABS モードの設定が確定すると、メイン画面に戻ります。
- 次の操作をするまで、ABS はオフのままになります。
  - 車両の電源をオフにする
  - エンジン始動中にスターター／エンジンストップスイッチ“⊠/◠/⊛”を“⊠”にする
  - 車両を停止し、“ABS ON” ボタンを押す
  - 車両を停止し、メニューシステムから再設定する

JWA21100

⚠警　告

舗装路を走行するときは常に ABS をオンにして走行してください。未舗装路を走行するときのみ ABS をオフにしてください。

Themes



このメニューでは、ディスプレイのテーマを切り替えることができます。テーマを確定すると、選択したテーマのメイン画面に戻ります。

Setting

“Setting” メニューには、次の設定項目があります。

Maintenance	メンテナンス用トリップメーターの設定を行います。(3-12 ページ参照)

Unit	表示単位の設定を行います。(3-12 ページ参照)
Brightness	ディスプレイ画面の明るさを調整します。(3-12 ページ参照)
Clock	時計の設定を行います。(3-12 ページ参照)
All Reset	メニューシステムの設定をリセットします。(3-13 ページ参照)

Maintenance



エンジンオイル交換時からの距離 “Oil” と、ご自身で決めた 2 つのメンテナンス項目 “Interval 1” / “Interval 2” の走行距離を表示します。
いずれかの項目のメンテナンスが完了したら、ホイールスイッチ “MENU▲▼” を短押しして選択し、ホイールスイッチ “MENU▲▼” を長押ししてリセットをしてください。

Unit



表示単位のを切り替えることができます。3 つの項目には、それぞれの単位を選択するサブメニューがあります。

要 点

速度単位に “mile” を選択すると、燃費単位は自動的に “MPG” 設定され、メニュー項目はグレー表示になります。

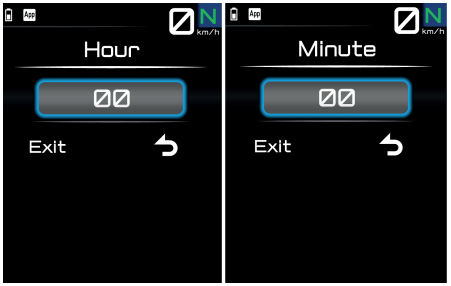
Brightness



ディスプレイ画面の明るさレベルを 3 段階から調整できます。

Clock





時計の設定ができます。この時計は 12 時間表示です。「時」と「分」は個別に設定します。

All Reset

トリップメーター（メンテナンス用トリップメーターは含まない）と表示単位を一度にリセットできます。

JAUA1340

クイックシフター（装備している場合）

クイックシフターは電子制御によりスロットルを開けたまま、クラッチレバーを操作しなくてもシフトアップを可能にするシステムです。シフトスイッチがシフトペダルの操作を感知すると、エンジン出力や駆動力が瞬間的に自動調整されてシフトアップが可能となります。

要　点

- クイックシフターは車の速度が 20 km/h 以上でエンジン回転数が 2000 r/min 以上、かつ加速中の場合のみ作動します。クラッチレバーを操作した場合、クイックシフターは作動しません。
- このシステムを有効にするには、オプションのアクセサリーパーツを追加する必要があります。くわしくはヤマハ販売店にお問い合わせください。

JAU90662

ABS

アンチロックブレーキシステム（ABS）は、フロントブレーキとリヤブレーキで、それぞれ独立して作動します。

JWA15363

⚠ 警 告

- **ABS　は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。**

ブレーキの使いかた

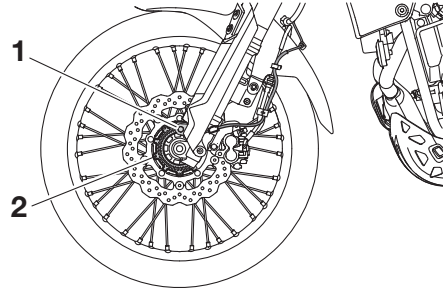
通常のブレーキと同様に、ブレーキレバーとブレーキペダルを操作します。ブレーキをかけたとき、ホイールスリップが検知されると ABS が作動し、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じます。そのままブレーキをかけ続けてください。制動距離が伸びるため、ブレーキを握ったり放したりしないでください。

- エンジン始動後、走行を始めたときに ABS は自己診断を行います。この間にハイドロリックユニットからカチカチ音が聞こえたり、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じたりしますが、故障ではありません。
- ABS が故障すると、通常のブレーキシステムとなります。

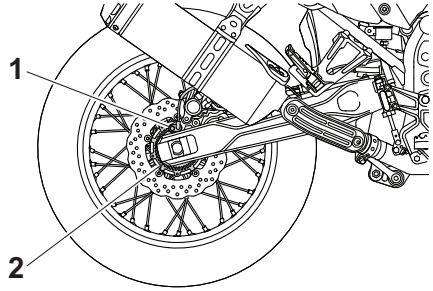
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター



1. リヤホイールセンサー
2. リヤホイールセンサーローター

要 点

未舗装路を走行するときのみ、ABS をオフにしてください。（詳細は 3-11 ページを参照してください。）

JWA21100

警 告

舗装路を走行するときは常に ABS をオンにして走行してください。未舗装路を走行するときのみ ABS をオフにしてください。

JAU34947

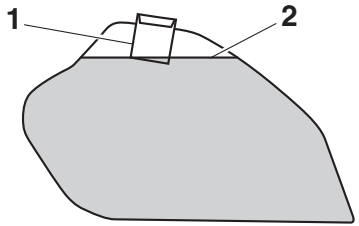
フューエルタンクキャップ

JWA12172

警 告

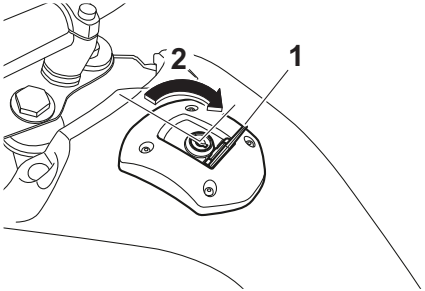
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの取り外しかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開け、キーを差し込みます。
2. キーを時計方向に 1/4 回してロックを解除し、フューエルタンクキャップを取り外します。

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. キーを差し込んだ状態で、フューエルタンクキャップを給油口に押し込みます。
2. キーを反時計方向に回して抜き取り、ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを取り付けることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく取り付けないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28313

指定燃料

指定燃料：
　無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
　約 15 L

JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAUM4110

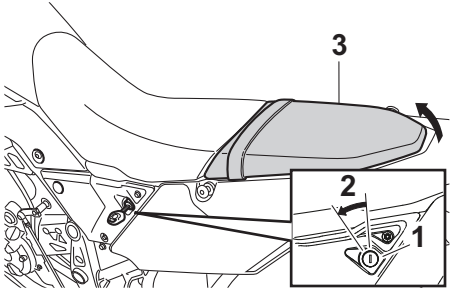
シート

タンデムシート

3

タンデムシートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

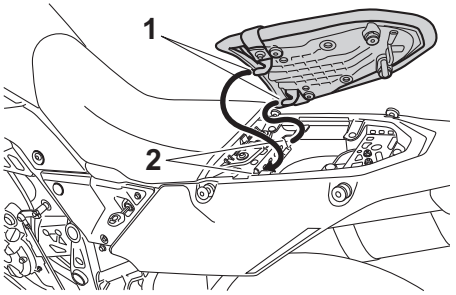


1. シートロック
2. 解除
3. タンデムシート

2. タンデムシートの後部を少し持ち上げ、後方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの前部にある突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。



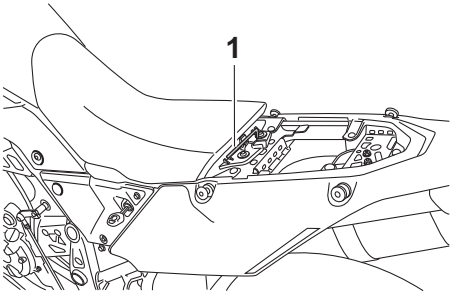
1. 突起
2. シートホルダー

2. タンデムシートの後部を押し、タンデムシートをロックします。
3. キーを抜き取ります。

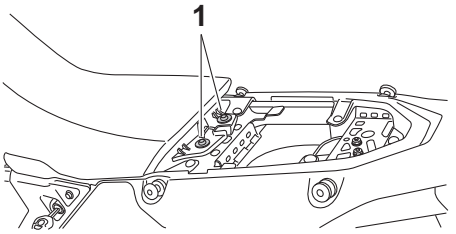
ライダーシート

ライダーシートの取り外しかた

1. タンデムシートを取り外します。
2. ライダーシート後方のホルダーにある六角レンチを使用して、ライダーシート後方のボルトを取り外します。



1. 六角レンチ

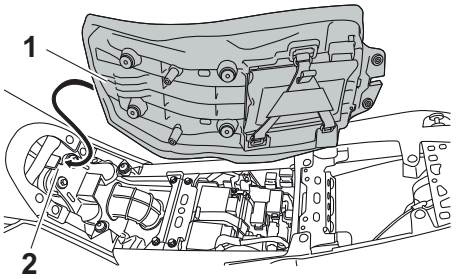


1. ボルト

3. ライダーシート後部を少し持ち上げ、後方向にずらしながらライダーシートを取り外します。

ライダーシートの取り付けかた

1. ライダーシートにある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込み、ライダーシートを元の位置に取り付けます。



1. 突起
2. シートホルダー

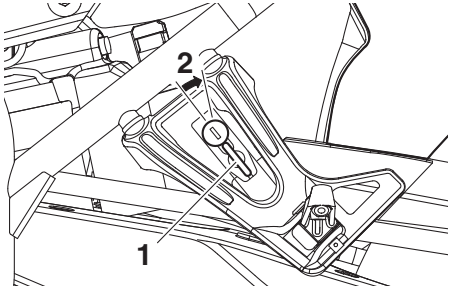
2. 六角レンチを使用してボルトを締め付けます。
3. 六角レンチをライダーシート後方のホルダーに戻します。
4. タンデムシートを取り付けます。

要　点

走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要　点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU90972

書類入れ

車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れはライダーシートの裏にバンドで固定して保管してください。(6-2 ページ参照)

JCA28461

注 意

電子部品（IC チップ）を内蔵した電子車検証は、IC タグを損傷しないように大切に保管してください。

JAU45205

フロントフォークの調整

JWA10181

⚠警 告

左右のフォークは同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

フロントフォークには、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

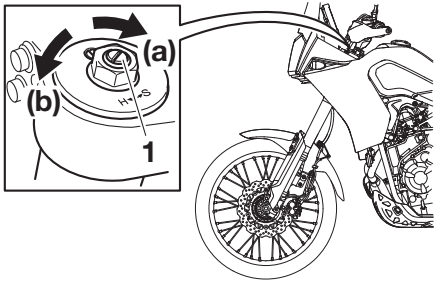
JCA10102

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

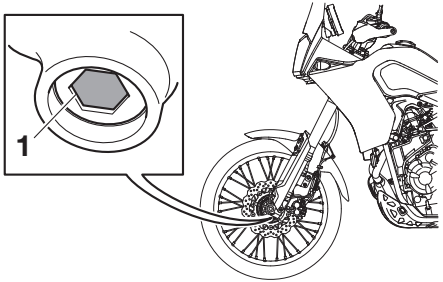
伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 17 段
標準：
(b) 方向へ 17 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 0 段

要 点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

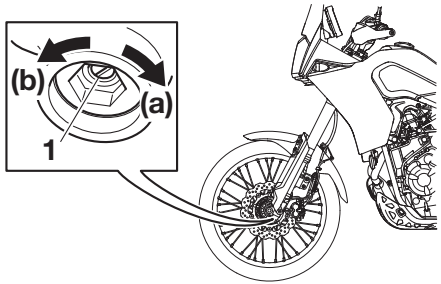
圧側減衰力

1. ゴムキャップをフロントフォークから取り外します。



1. ゴムキャップ

2. 減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 19 段
標準：
(b) 方向へ 11 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 0 段

3. キャップを取り付けます。

要　点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JAU90980

フロントフォークのエア抜き

走行により、フロントフォーク内の温度が上がると、フォーク内の空気圧が上昇し、フロントサスペンションは固くなります。このような場合、以下のようにしてフロントフォークのエア抜きを行います。

JWA10201

⚠ 警 告

エア抜きは左右のフロントフォークに対して行ってください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

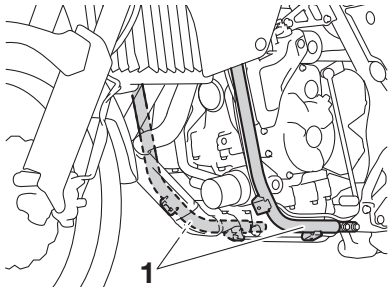
要　点

フロントフォークのエア抜きを行うときは、車両の前部に荷重がかからないようにします。

1. 車を平坦なところに停めます。

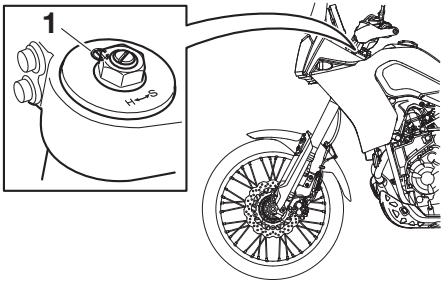
要　点

- 可能であればフロントホイールを浮かせてください。その場合は、カバー A を取り外し、エンジンの下に適当なスタンドを置き、フロントホイールを持ち上げます。(6-2 ページ参照)
- ダウンチューブを支点にして、フロントホイールを持ち上げないでください。



1. ダウンチューブ

2. ブリードスクリューを外し、それぞれのフォークからエアを放出させます。



1. ブリードスクリュー

3. ブリードスクリューを取り付けます。

JAUM4121

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA12441

⚠ 警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

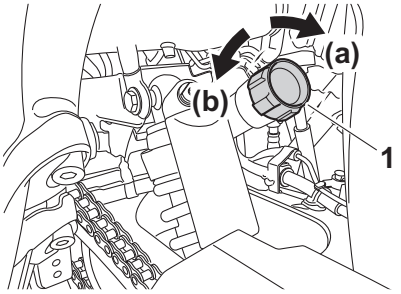
JCA10102

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。
スプリングプリロードの調整は、アジャスターを (b) 方向に止まるまで回し、(a) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

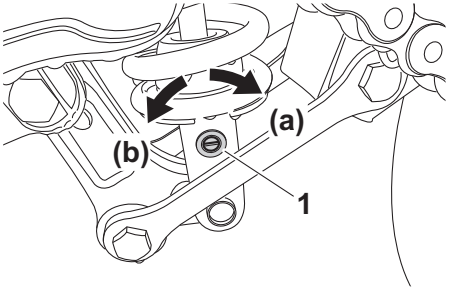
スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a) 方向へ 0 段
標準：
(a) 方向へ 10 段
最大（ハード）：
(a) 方向へ 24 段

要 点

- アジャスターを (b) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (a) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、スプリングプリロードに変化はありません。調整範囲内で使用してください。

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 23 段
標準：
(b) 方向へ 13 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 0 段

要 点

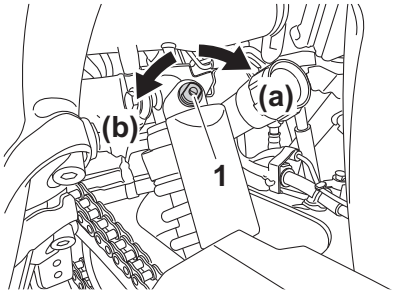
- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。

● アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 18 段
標準：
(b) 方向へ 15 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 0 段

要　点

● アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。

● アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA10222

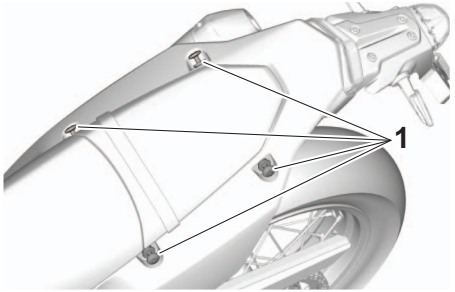
⚠ 警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU84680

荷掛けフック



1. 荷掛けフック

図に示した荷掛けフックを使用し、荷物を固定します。

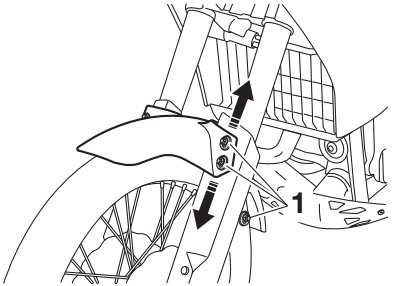
JAUM4130

フロントフェンダー

走行条件に合わせて、フロントフェンダーの高さを調整できます。

フロントフェンダーの高さ調整のしかた

1. フロントフェンダー両側のボルトを緩めます。



1. ボルト

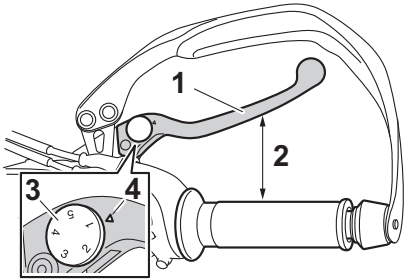
2. フロントフェンダーを希望の高さに調整します。
3. 規定のトルクでボルトを締め付けます。

締め付けトルク：
フロントフェンダーボルト：
8 N·m (0.8 kgf·m)

JAU45543

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター
4. 合マーク

要　点

アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

JAU70642

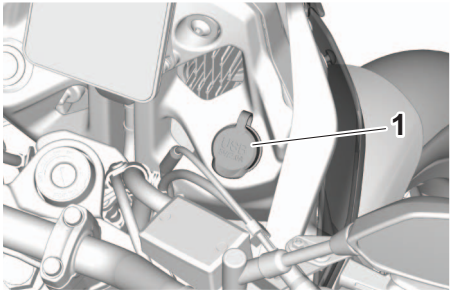
DC コネクター

この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。
コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

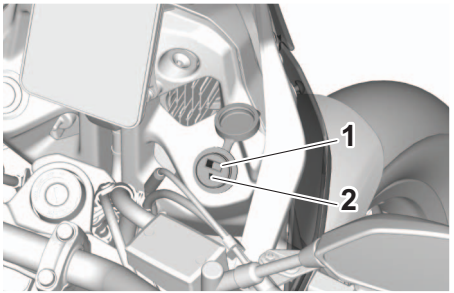
JAUA1240

USB ジャック

この車には、5V の USB ジャックが搭載されています。車両の電源がオンのときに使用できます。



1. USB ジャックキャップ



1. USB ジャック
2. USB ジャックインジケーターライト

要　点

- USB ジャックに接続したり、取り外したりする前にデバイスの電源をオフにしてください。
- USB ジャックが熱くなったり、故障するとインジケーターライトが消灯します。このような場合はヤマハ販売店で点検を受けてください。
- 状況によっては、デバイスを USB に接続していてもデバイスのバッテリー残量が低下する場合があります。

JCA27711

注 意

USB ジャックを水や衝突から保護するために、USB　ジャックを使用しない場合は、キャップを取り付けてください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU57952

イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。
イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

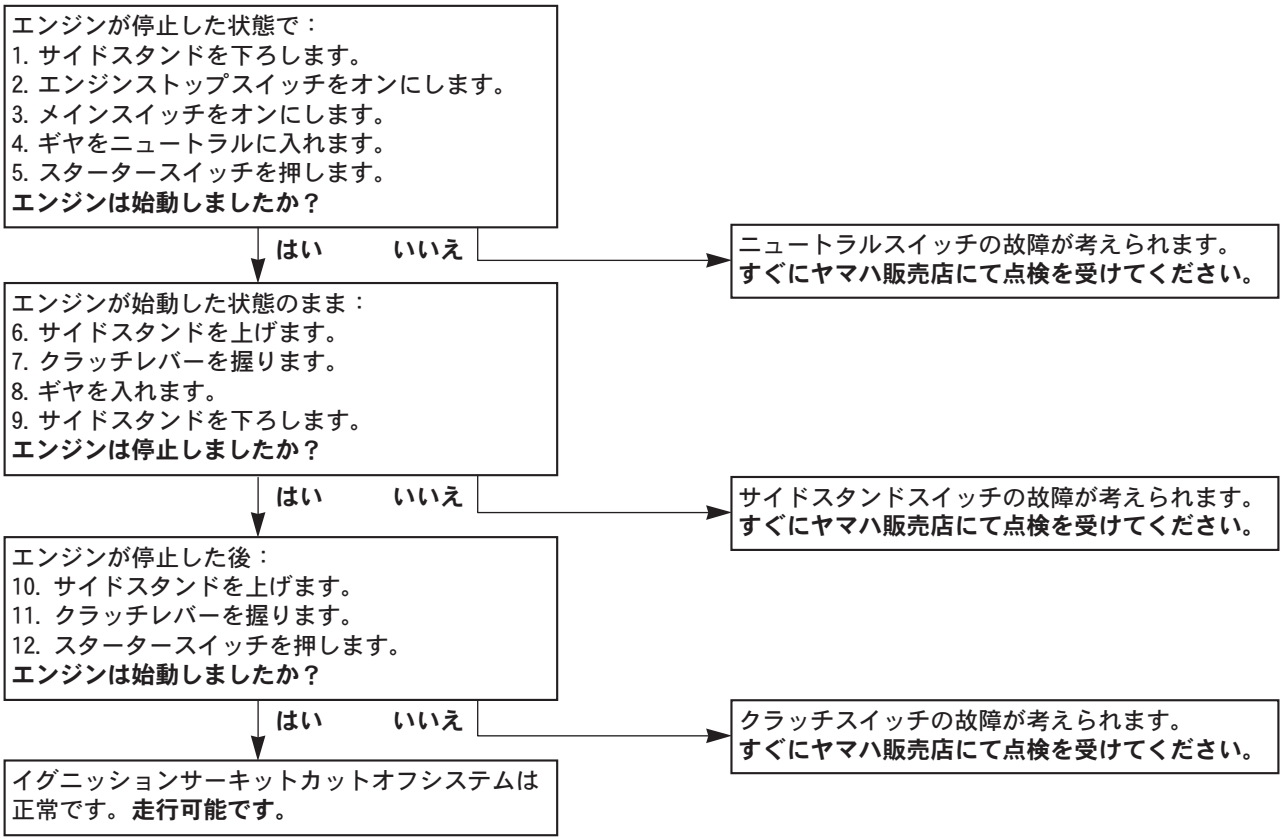
要　点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、3-2 ページ、3-3 ページを参照してください。

JWA11541

⚠警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。


エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが始動した状態のまま：
6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？
はい
いいえ
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが停止した後：
10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
イグニッションサーキットカットオフシステムは
正常です。走行可能です。

日常点検

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU31471

ならし運転

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 5600 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU54175

エンジン始動

JWA11562

⚠ 警 告

- **エンジンを始動するときには、3-24 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスイッチを ON にし、スターター／エンジンストップスイッチが “⏀” にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの “⏀” 側を押して、エンジンを始動します。

要 点

スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

JCA15992

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

5

JAUM3632

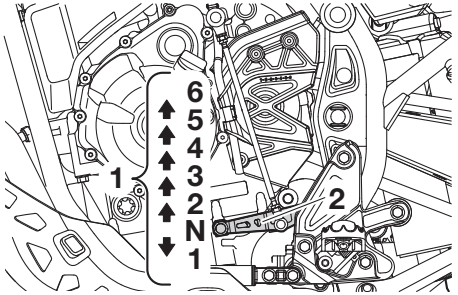
要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 車両の電源がオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合は車両の電源を一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。この機構が働いたとき、エンジン警告灯が点灯しますが、故障ではありません。また、リセット操作を行うと、エンジン警告灯が消灯します。
- 車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU27517

ギヤチェンジのしかた



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

この車はリターン式の 6 段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要　点

ニュートラル（**N**）にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。

JCA10262

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。**
- **クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度
1 速 : 0 km/h–65 km/h
2 速 : 15 km/h–90 km/h
3 速 : 20 km/h–115 km/h
4 速 : 25 km/h–145 km/h
5 速 : 30 km/h–175 km/h
6 速 : 35 km/h 以上

シフトダウン速度
6 速 → 5 速 : 140 km/h 以下
5 速 → 4 速 : 115 km/h 以下
4 速 → 3 速 : 95 km/h 以下
3 速 → 2 速 : 70 km/h 以下
2 速 → 1 速 : 50 km/h 以下

JWA20720

⚠ 警 告

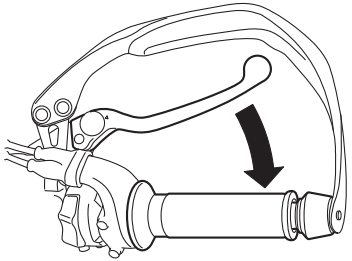
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

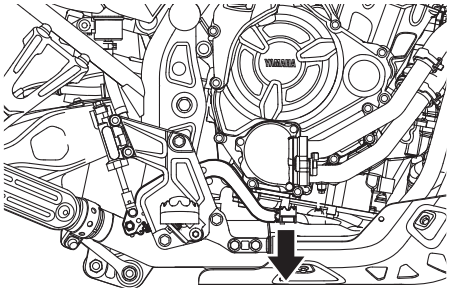
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

⚠ 警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JCA26500

注 意

- **上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。**
- **不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。**

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠ 警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

5

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠警 告

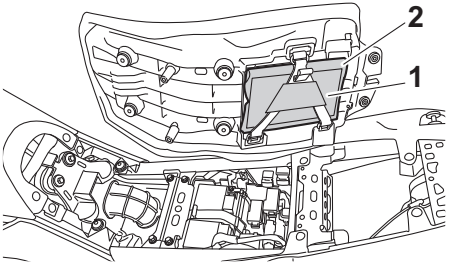
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAUM4512

サービスツール



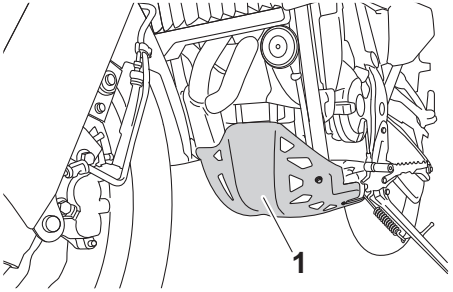
1. サービスツール
2. ポーチ

サービスツールは図で示す場所にあります。必ず書類入れ（格納用ポーチ）をシート裏側にはめてからサービスツールを取り付け、バンドをサービスツールのループに通して固定してください。

JAU18752

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

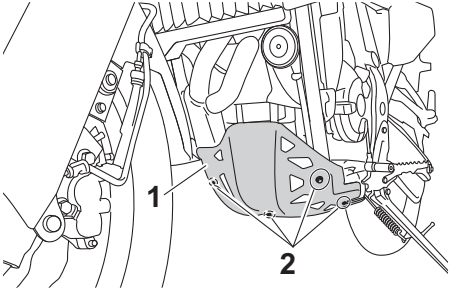


1. カバー A

JAUA0940

カバー A

<u>カバーの取り外しかた</u>
ボルトとワッシャーを外し、カバーを取り外します。



1. カバー A
2. ボルト／ワッシャー

<u>カバーの取り付けかた</u>
カバーを元の位置に取り付け、ワッシャーとボルトを締め付けます。

JAU30378

エンジンオイル

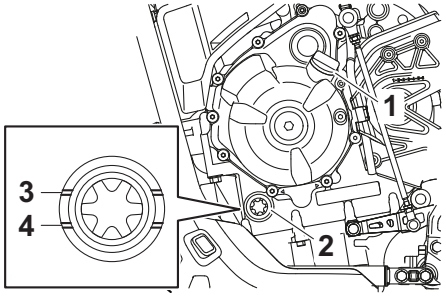
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

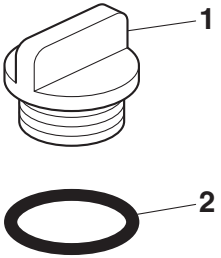


1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照）

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

JAU47505

エンジンオイルの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
　オイル交換時：
　　2.30 L
　オイルフィルター取り外し時：
　　2.60 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　30000 km 走行ごと

JWA11861

⚠ 警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

⚠ 警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

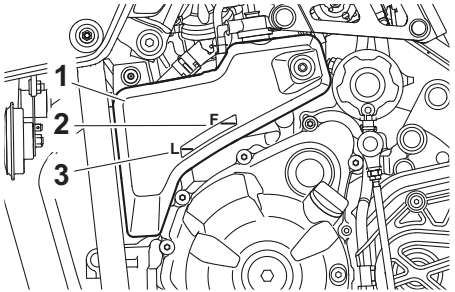
JAU30723

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を１対１で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠警　告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

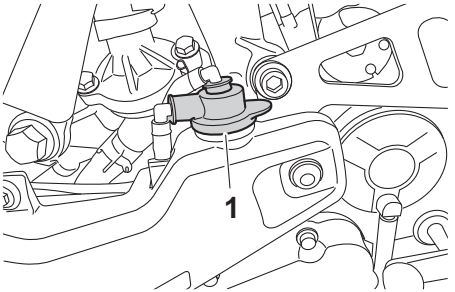
注　意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30812

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

注　意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAUM4161

エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。また、ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースも定期的に点検し、必要に応じて清掃してください。

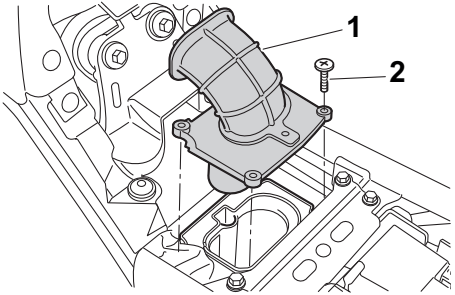
JCA11951

注 意

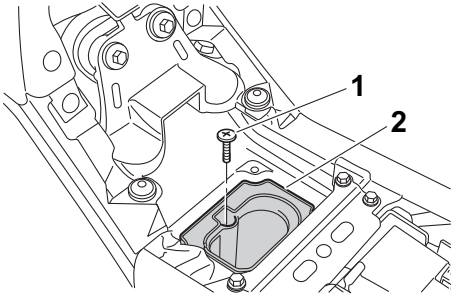
- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。**

エアクリーナーエレメントの交換

1. タンデムシートとライダーシートを取り外します。(3-16 ページ参照)
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外し、エアクリーナーエレメントを固定しているスクリューを外し、エアクリーナーエレメントを引き抜きます。



1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー



1. スクリュー
2. エアクリーナーエレメント

3. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付け、スクリューを締め付けます。



1. エアクリーナーエレメント

4. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
5. ライダーシートとタンデムシートを取り付けます。

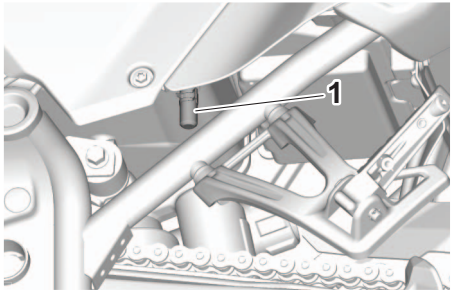
JCA15751

注 意

- **エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。**
- **洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。**
- **著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、交換を行ってください。**

ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

1. ブリーザードレンホースを取り外して点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



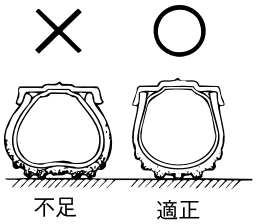
1. ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホース

2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを清掃し、元に戻します。

タイヤ

JAU70860

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤの冷えているときに測定してください。

タイヤ空気圧 （冷間時）：

1名乗車：

前輪：
220 kPa (2.20 kgf/cm²)

後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

2名乗車：

前輪：
220 kPa (2.20 kgf/cm²)

後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

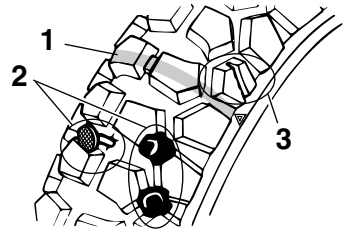
要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28583

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
2. 異物（釘、石など）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28826

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 1.0 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的にトレールタイプのタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが 4 mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

前輪：
90/90-21 M/C 54V M+S A

後輪：
150/70 R18 M/C 70V M+S

指定タイヤ：

前輪：
PIRELLI/SCORPION RALLY STR

後輪：
PIRELLI/SCORPION RALLY STR

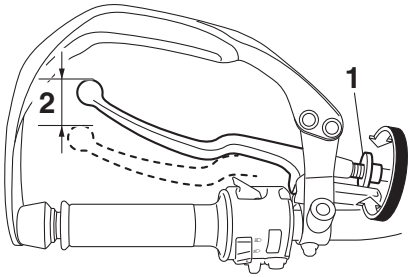
JAU48222

クラッチ

クラッチレバーの遊び

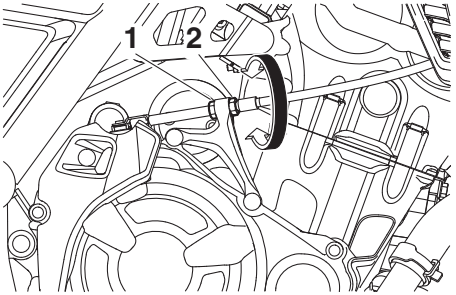
クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
5.0–10.0 mm



1. アジャスター
2. 遊び

点検の結果、調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。
レバー側のアジャスターでクラッチレバーの遊びを規定値内に調整できない場合は、クランクケース右側にあるロックナットをゆるめて、アジャスターで調整します。



1. ロックナット
2. アジャスター

JWA11841

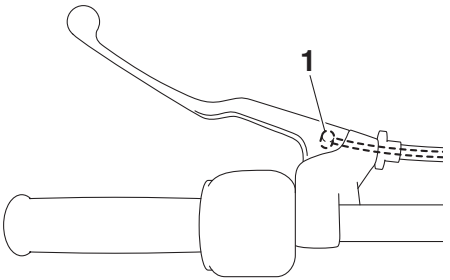
⚠警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注 意

- **調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。**
- **1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。**



1. ケーブル取り付け部

JAU31122

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36505

ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプは ABS の構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

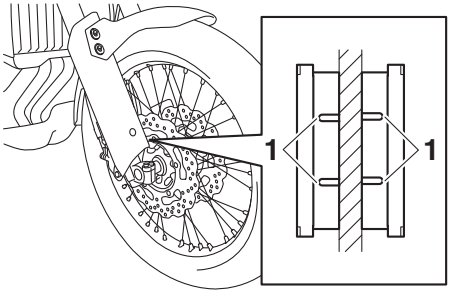
JAU85500

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

＜フロントブレーキ＞

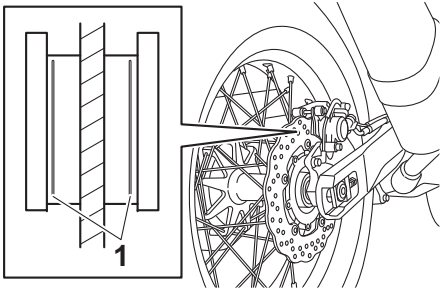
ブレーキパッドのインジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター溝

＜リヤブレーキ＞

ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

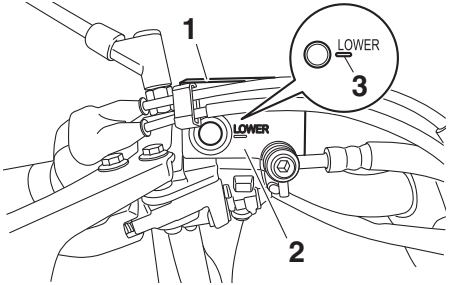


1. インジケーター溝

JAU44233

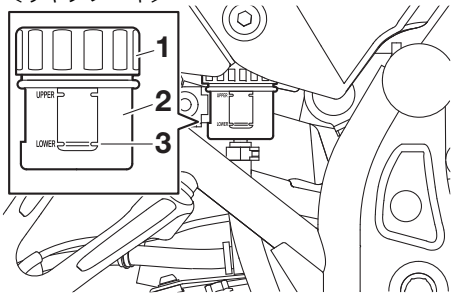
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

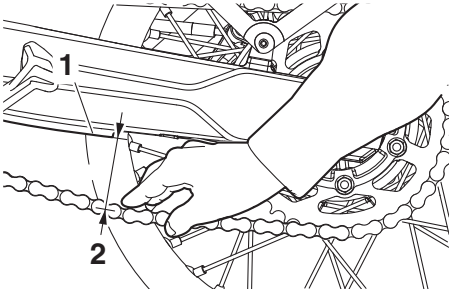
- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

JAU22762

ドライブチェーン

JAU60046

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンガード
2. セット長 A

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。ドライブチェーンガード端の下側で、ドライブチェーンを手で下側に押します。このとき、セット長 A が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要　点

セット長 A（ドライブチェーンのたわみ量）を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

セット長 A：
43.0–48.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

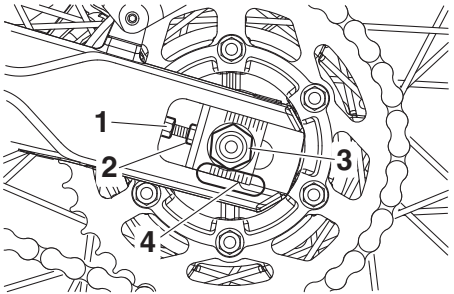
ドライブチェーンのたわみ量が 55.0 mm 以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. セルフロッキングナット
4. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
105 N·m (10.5 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23027

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

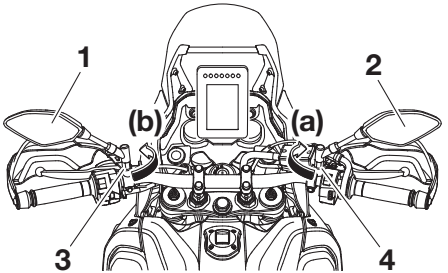
この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12142

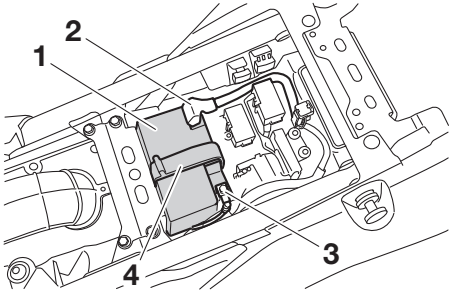
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU85510

バッテリーの取り外し

1. ライダーシートを取り外します。（3-16 ページ参照）
2. バッテリーバンドを外します。
3. －（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. バッテリー
2. ＋リード線
3. －リード線
4. バッテリーバンド

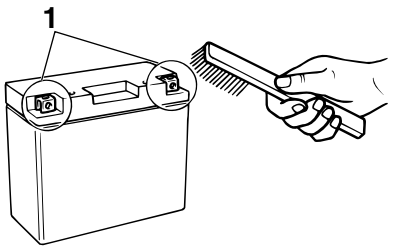
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

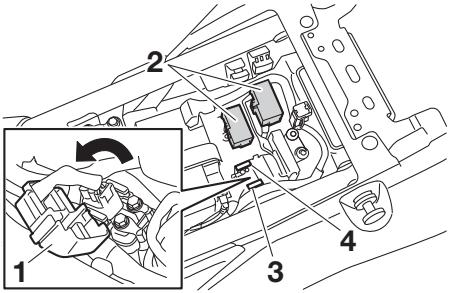
JAU59876

ヒューズ交換

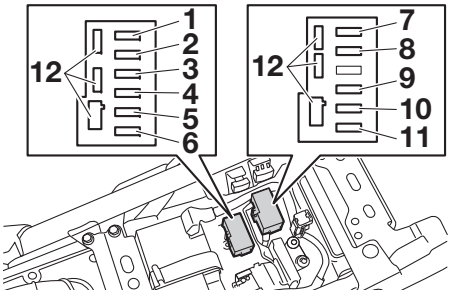
メインヒューズと系統別ヒューズボックスは、ライダーシートの下にあります。(3-16 ページ参照)

要　点

メインヒューズを交換するときは、スターターリレーカバーを外す必要があります。



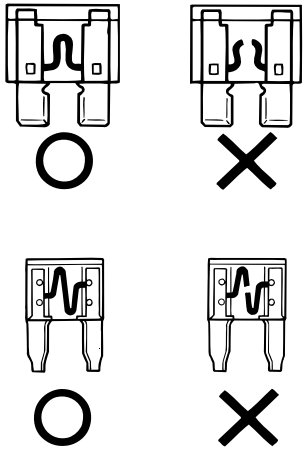
1. スターターリレーカバー
2. ヒューズボックス
3. メインヒューズ
4. スペアメインヒューズ



1. イグニッションヒューズ
2. シグナルヒューズ
3. ヘッドライトヒューズ
4. フューエルインジェクションヒューズ
5. バックアップヒューズ（時計／イモビライザーシステム）
6. ラジエターファンモーターヒューズ
7. ABS ソレノイドヒューズ
8. ABS モーターヒューズ
9. アクセサリーヒューズ
10. DC コネクターヒューズ
11. ABS コントロールユニットヒューズ
12. スペアヒューズ

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ：
メイン：
30.0 A
DC コネクター：
2.0 A
ヘッドライト：
10.0 A
シグナル：
7.5 A
イグニッション：
10.0 A
ラジエターファンモーター：
10.0 A
フューエルインジェクション：
10.0 A
ABS モーター：
30.0 A
ABS ソレノイド：
20.0 A
ABS コントロールユニット：
7.5 A
バックアップ：
7.5 A
アクセサリー：
10.0 A

JCA12862

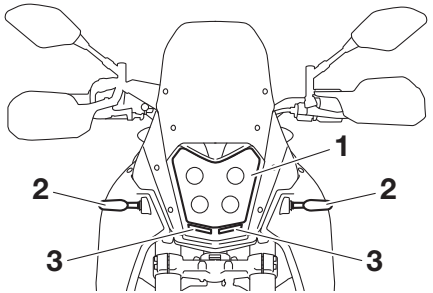
注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

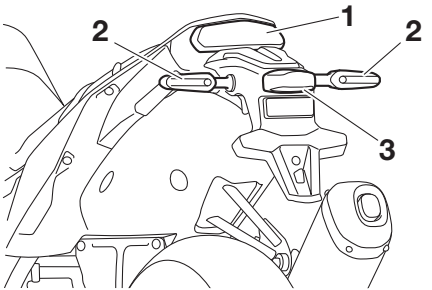
3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29447

灯火装置および方向指示灯の点検



1. ヘッドライト
2. 方向指示灯（前）
3. マーカーランプ



1. ブレーキ / テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-15 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

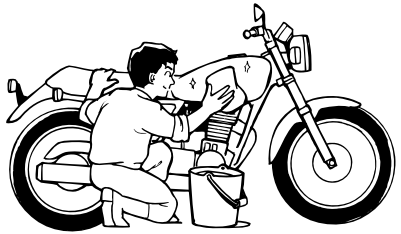
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27795

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**
- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性**

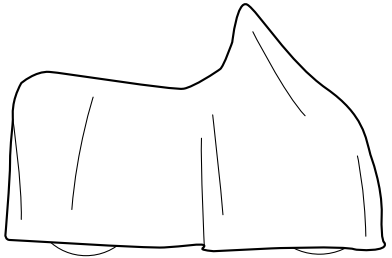
洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

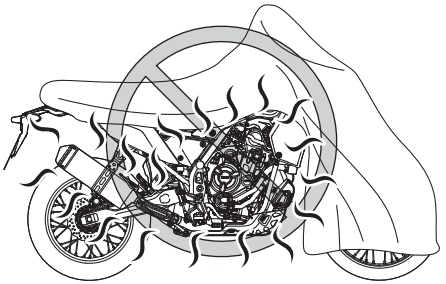
要　点
- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。
- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

製品仕様

寸法 :
全長 :
2370 mm
全幅 :
905 mm
全高 :
1455 mm
シート高 :
875 mm
軸間距離 :
1595 mm
最低地上高 :
240 mm
重量 :
車両重量 :
205 kg
乗車定員 :
2 名
性能 :
最小回転半径 :
2.9 m
エンジン :
行程 :
4 ストローク
冷却方式 :
水冷
動弁機構 :
DOHC
配列 :
直列
気筒数 :
2 気筒
総排気量 :
688 cm^3
フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式ダブルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
フロントタイヤ :
種類 :
チューブ有り
サイズ :
90/90-21 M/C 54V M+S A
メーカー / 銘柄 :
PIRELLI/SCORPION RALLY STR
リヤタイヤ :
種類 :
チューブ有り
サイズ :
150/70 R18 M/C 70V M+S
メーカー / 銘柄 :
PIRELLI/SCORPION RALLY STR
動力伝達機構 :
1 速 :
2.846 (37/13)
2 速 :
2.125 (34/16)
3 速 :
1.631 (31/19)
4 速 :
1.300 (26/20)
5 速 :
1.090 (24/22)
6 速 :
0.964 (27/28)
エレクトリカル :
電圧 :
12V
バルブワット数 :
ヘッドライト :
LED
ブレーキ / テールランプ :
LED
方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
LED
番号灯 :
5.0 W
マーカーランプ :
LED
エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス
エンジンオイル量 :
オイル交換時 :
2.30 L

オイルフィルター取り外し時 :
2.60 L

冷却水容量 :

リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.25 L
ラジエターと全ての経路 :
1.60 L

バッテリー :

バッテリー型式 :
YTZ7S
バッテリー容量 :
12 V, 6.0 Ah (10 HR)

スパークプラグ :

メーカー / 型式 :
NGK/LMAR8A-9
プラグギャップ :
0.8–0.9 mm

ユーザー情報

JAU36644

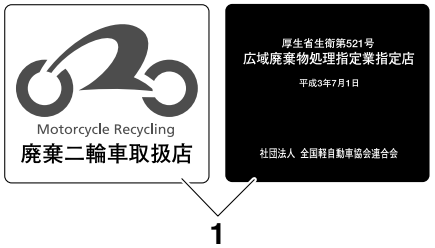
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



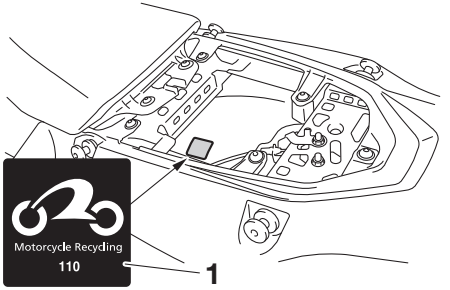
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル　部品番号：

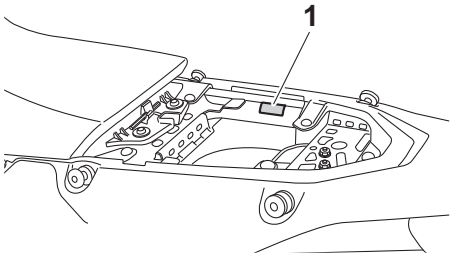
QQS-CLT-000-BVW

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、タンデムシート下のフレームに貼り付けてあります。



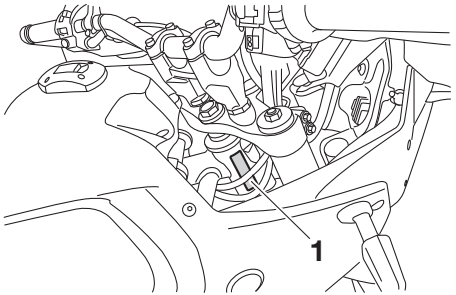
1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は
TENERE700
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号



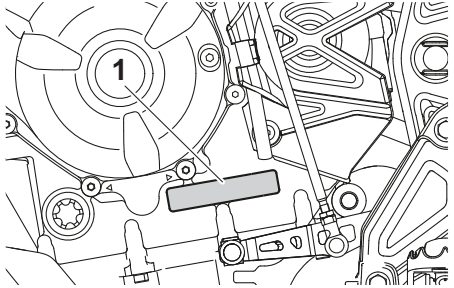
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

9

JAU50511

原動機番号

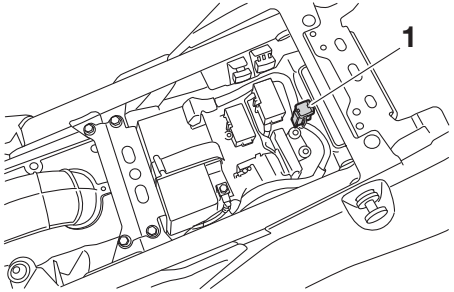


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

JAUA1210

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の 3 種類の車両情報を記録しています。

1）車体番号

2）エンジン / モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報

3）故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

1）適切なメンテナンスや故障探求のため

2）適正な保証修理判定のため

3）製品の研究開発

4）製品、機能、およびサービスの品質向上のため

5）その他の事業目的を達成するため

6）法律や規則に基づいて要求された場合

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および契約者会社に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ヤマハ発動機株式会社

〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500

dpo@yamaha-motor.co.jp

こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。

ユーザー情報

関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。
お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

あ
あなた自身と同乗者のために.....1-1
アフターケア用品について.....7-3
い
イグニッションサーキット
カットオフシステム.....3-24
イモビライザーシステム.....3-1
う
運行において異常が認められた
箇所の点検 6-17
え
ABS.....3-13
“ABS ON” ボタン.....3-5
エアクリーナーエレメントの交換 6-6
エンジンオイル.....6-3
エンジン警告表示.....3-8
エンジン始動.....5-1
エンジンのかかり具合、
異音の点検 6-4
か
カバーの取り外し、取り付け.....6-2
環境・住民の方との調和のために 1-6
き
キーの取り扱い.....3-1
ギヤチェンジのしかた 5-2
く
クイックシフター
（装備している場合）.....3-13
クラッチ 6-9
け
警告灯と表示灯.....3-5
原動機番号.....9-3
こ
故障診断コネクター.....9-3
故障表示灯 3-5
さ
サービスツール 6-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介 9-2
サイドスタンド 3-23
し
シート.....3-16
車体各部の給油脂状態の点検.....6-13
車台番号.....9-2
車両情報.....9-2
車両情報の記録に関して 9-4
書類入れ.....3-17
す
スターター／エンジンストップ
スイッチ.....3-4
せ
洗車.....7-1
た
タイヤ.....6-7
ち
駐車.....5-3
て
DC コネクター.....3-22
低速、加速の状態の点検 6-4
点検整備の実施 6-1
と
灯火装置および方向指示灯の点検....6-17
ドライブチェーン.....6-12
ドライブチェーンの給油 6-13
な
ならし運転.....5-1
に
荷掛けフック 3-21
日常点検箇所／点検内容.....4-1
日常点検の実施 4-1
二輪車を廃棄する場合は？ 9-1
ね
燃料 3-15
は
ハザードスイッチ 3-4
バックミラー.....6-13
パッシングライトスイッチ.....3-3
バッテリー.....6-14
ハンドルスイッチ 3-3
ひ
ヒューズ交換.....6-15
ふ
フューエルタンクキャップ.....3-14
ブレーキ.....5-3
ブレーキ液量の点検 6-11
ブレーキパッドの点検.....6-10
ブレーキランプスイッチの点検 6-10
ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検.....6-10
ブレーキレバーの握り調整.....3-22
フロントフェンダー 3-22
フロントフォークのエア抜き 3-19
フロントフォークの調整.....3-18

索引

へ
ヘッドライト上下切り替え
スイッチ 3-3
ヘルメットホルダー 3-17
ほ
ホーンスイッチ 3-4
方向指示器スイッチ 3-4
保管のしかた 7-2
歩行者と他の車のために 1-5
め
メインスイッチ 3-2
メインディスプレイ画面 3-7
メニューシステム 3-10
も
モデルラベル 9-2
ゆ
USB ジャック 3-23
り
リヤクッションの調整 3-20
れ
冷却水 6-5

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-100-BVW

PRINTED IN JAPAN
2023.07-0.3×1 CR (J)